



2026年度 3学年通信 友よ 我等は

甲府東高等学校
2026. 6. 26(金)
第4号

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください。

はたして「楽しむ」「楽しい」とはどういうことなんだろう？

学年主任 古屋 彰士

皆さんもご存じのとおり、5月末に千葉市内で行われた令和8年度第70回関東高等学校弓道大会において、弓道部が男子団体で第3位となり、山田新聞にもそのときの様子が掲載されました。また、関東大会から2週間後に行われたインターハイ山梨県予選では優勝を飾り、県代表の座を射止めました。弓道部の皆さんには大変失礼な話ですが、インターハイ出場は難しいのではないかと、関東3位のプレッシャーに負けてしまうのではないかと内心思っていました。しかし、今回その思いを見事に裏切ってくれました。おめでとうございます。

そこで、弓道部を代表して、6組の小林一心さんと横瀬水希さんに話を伺いました。

Q：関東3位という重圧がかかっているから、インターハイ予選で優勝できた要因は？

A：プレッシャーや緊張よりも「楽しんでいこう」という思いの方がチーム内で強かった。それがいい結果につながったと思います。また、「前の人がはずしても、自分がカバーすれば大丈夫」という気持ちを大切に取組んできました。勝因は、飛び抜けた存在の選手がいないからこそ、相互にカバーし合えたことです。

また、陸上部の諸星奏良さんは、6月12日から水戸市内で行われた南関東高校総体2026において、男子円盤投げで第3位となり、インターハイの出場権を手中に収めました。おめでとうございます。諸星さんにも話を伺ってみました。

Q：出場権を獲得できた要因と意気込みをお願いします。

A：すべてのことを何とかしてやろうと思わず、ポイントを絞って修正を積み重ねてきたことで、大会当日「やりきろう」「楽しもう」という気持ちで試合に臨みました。インターハイ当日まで時間は限られています。自分の長所を伸ばせるように課題を修正していきたいです。

両回答に共通していたのは「楽しもう」という思いをもって試合に臨んだことでした。プレッシャーのかかる中、なかなか難しいことだと思います。一人一人紹介し切れませんが、この夏、関東や全国の舞台に臨む生徒がたくさんいます。皆さんが「楽しもう」という気持ちをもちつつ活躍されることを心より祈念しています。

第50回蒼龍祭が終了しました。蒼長の落合翔輝さんが学年集会で宣言してくれた「楽しむ！（=未知なるものと出会いを楽しむ！）」は本現できたでしょうか。3回目の蒼龍祭なので今年こそは計画通りに…と思っただけのもの、なかなかうまくいかないことも多かったのではないのでしょうか。（かく言う私は、ここだけの話、皆さんの合唱を審査員席で聴いて、のんきに涙を流していました。）蒼龍祭終了直後、生徒会長の滝澤菜さんが職員室に来て挨拶をしてくださいました。途中で折れそうになった心を多くの人に支えてもらったことに対する感謝の気持ち、蒼龍祭を通点と捉え、学んだことを今後に生かしていこうという強い決意の言葉を耳にして、再び涙が出そうになりました。最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、学園祭開催に際して、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

7月の主な行事予定

- 6月29日(月)～7月3日(金) 三者懇談(29, 30日:5分短縮、1日～3日:午後授業カット)
- 6月29日(月)～7月10日(金) フードドライブ
- 1日(水) 夏服完全更衣 早稲田大学説明会(13:10～)
- 2日(木) メディカルセミナー(13:00～)
- 3日(金) 上カセット▲ 8日(水) 上カセット▲
- 9日(木) 山梨大学説明会(16:20～)
- 11日(土) 土曜活用事業(サタチャレ) 16日(木) 選挙管理委員会
- 20日(月) 海の日 やまなし探究シンポジウム
- 21日(火) 前期中間試験 学年集会
- 22日(水) 前期中間試験 納め式 全校集会 大掃除 LHR
- 23日(木)～8月19日(水) 夏季休業
- 23日(木)～28日(火) 夏期講座①
- 26日(日) 全統共通テスト模試(外部) 29日(水)～8月3日(月) 夏期講座②



「先生の人生を知り、そこから教訓を得たい、とは言われていないが勝手に語る。」

3組担任 秋山 千聖

2月に大学の友人と金沢にカニを食しに行ったのだが(北陸のカニはたいそう美味だった)、帰りの新幹線で友人が「近現代文学の先生が今年定年で退官されるから、学会で記念講義があるよ」というので、9年ぶりに母校の大学に行ってきた。記念講義が行われる学会だったので、多くの先生や先輩、学科事務の方々とも再会し、「あの1号館2階の薄暗い国文学研究室が懐かしいね」と思い出話に花が咲いた。何よりも、江戸っ子の粋が香る文章の魅力を伝える先生の講義が実に面白く、私はこういう話を聞くのが本当に楽しいのだと再確認した。今改めて思うに、母校の教員陣はベテランから若手中堅までとても充実していた。読書は昔から好きだったが、それとは違う「文学を学ぶ面白さ」を大学の4年間で知った。大学の規模もさほど大きくなく、教員との距離感も学生の雰囲気も私に合っていたのだと思う。私が真剣に教員を目指すようになったのは大学4年の頃で、私が所属していた漢文学ゼミの亡き指導教官の影響も大きかったので、そういう意味でも母校は私の中で大切な存在だ。

そんな母校の私立大学は、国公立大学への入学を目指していた高校時代の私にとっての第1志望ではない。そもそも自分のやりたいことがずっと曖昧だったので、第1志望という概念も定かではないが、とにかく3年の冬の三者懇談で併願校を決める時に担任から「せめてここは受けておけ」と助言を受けて受験した。オープンキャンパスどころか、パンフレットも見していない。高校時代、勉強を頑張っていたつもりで全然やっていなかった(と今ならわかる)私のセンター試験は大失敗だった。さらに自分の実力を上に勘違いしていたがために受験計画も穴だらけで、受けた私立は結果的に母校となった大学以外はすべて不合格。つまりめプライドなど捨てて、もっとがむしゃらに勉強すればよかったと悔やんだが時すでに遅し。浪人する余裕も自信もなく、ありがたいことに進学させてもらったが、5月くらいまでは一人前に絶望していた。転機は、暫く経って「(客観的に見れば努力不足であったとしても)自分なりに頑張った結果なのに、このまま絶望していたらもったいない」と思うようになったことだ。それに、親に学費を出してもらうからには、取れる資格は取り、取れる講義は取らないと元が取れない、と思って教員免許と学芸員資格を取ることにした。次第に文学の勉強が面白くなり、学科を越えて講義を聞き漁り、話の合う仲間ができて、いろんな人と関わるうちに教員を目指すようになり、今に至る。高校生の青春の眩しさに心動かされ、様々な文章を読んで思案に耽ることを楽しみ、たまに気の合う友人とカニを食しに旅行などに行ったりもする、結構楽しい人生である。

おいしいチャーシュー麺を作ろう！その2

6月24日(水)に、野球部および関東・全国大会に出場する生徒の壮行会が行われました。

《インターハイ [令和8年度全国高等学校総合体育大会 (近畿総体2026)]》出場

弓道部 2組: 朝川悠さん・5組: 遠藤准平さん・6組: 神田琉希亜さん・小林一心さん・山口瑛仁さん・横瀬水希さん

陸上部 5組: 諸星奏良さん

《総文祭 [第50回全国高等学校総合文化祭 (あきた総文2026)]》出場

書道部 3組: 相河こころさん

写真部 2組: 今井愛梨さん

《NHK杯全国高校放送コンテスト》出場

放送部 6組: 神谷駿太朗さん

《令和8年度関東高等学校水泳競技大会》出場

水泳・水球部 4組: 遠藤勝汰さん・長根山洵弥さん
6組: 飯田樹さん



弓道部・インターハイ出場を決めた直後の様子